

ダニエルの書 - 第三十四号

ダニエルの啓示：地上の歴史と神の裁きをめぐる預言の旅

Jeff Pippenger

2023-12-29

ダニエル書の最初の六章は、黙示録13章の地の獣の歴史を表している。アメリカ合衆国（地の獣）は、1798年に、教皇権（黙示録13章の海の獣）が預言における致命傷を受けて聖書予言における第五の王国としての支配を終えたとき、聖書予言における第六の王国として登場した。

地の獣の歴史とは、神の裁きが近づいていることを警告する歴史である。地の獣の歴史の初めに、神の調査審判が始まり、地の獣の歴史の終わりに、神の執行裁きが始まる。初めにおける神の調査審判の接近の警告は、黙示録14章の第一の天使の使命によって表され、1798年の「終わりの時」に到来した。終わりににおける神の執行裁きの接近の警告は、黙示録14章の三天使の使命として表され、1989年の「終わりの時」に到来した。

あらゆる「終わりの時」に、ダニエル書の一部の封印が解かれる。地の獣の初期の歴史において、1798年に、ダニエル書の第7章、第8章、第9章の封印が解かれた。これらの章はウライ川の幻として表されている。地の獣の歴史の終わりにあたる1989年に、ダニエル書の第10章、第11章、第12章の封印が解かれた。これらの章はヒデケル川の幻として表されている。ダニエル書の封印が解かれるたびに、その時代に生きている世代に三段階の試験が課される。

彼は言った。「ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されている。多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者がいない。だが、賢い者は悟る。」ダニエル書 12:9、10

三段階の試験過程は、「真理」と訳されるヘブライ語の語の構造に基づいており、その語はヘブライ語アルファベットの最初の文字、第十三の文字、そして最後の文字を組み合わせて作られたものである。そのヘブライ語の語は、神の創造の力を表し、その力をも宿している。すべての預言的真理はその語に基づいて構成されており、ダニエル書十二章の三段階の試験過程も同様である。その語は、神の創造の力だけでなく、真理であり、またヘブライ語アルファベットの最初と最後の文字により示されるように初めであり終わりである方でもあるイエス・キリストをも表している。

1798年、終わりの時に調査審判の接近が告げられたときの地の獣の初期の歴史は、黙示録14章の第一の天使によって表されている。黙示録14章の第一の天使のメッセージは、三つの段階それぞれを備えている。これらは真理であり、また、1798年に第一の天使が到来したとき、その世代が直面した三段階の試験の過程を表している。

また、私はもう一人の御使いが天の中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者たち、あらゆる国民、部族、言語、民に宣べ伝えるための永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った。「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである。天と地と海

と水の泉を造られた方を礼拝せよ。」ヨハネの黙示録 14:6、7。

1989年、終わりの時に執行裁きの接近を告げる警告が到来したが、その時期における地の獣の終末史は、黙示録14章の三天使によって表されている。黙示録14章の三天使は、真理である三つの段階を表すと同時に、1989年に第三の天使が到来した時に生きていた世代が直面した三段階の試験過程をも表している。

私はまた、中天を飛ぶもうひとりの御使いを見た。彼は、地に住む者、またすべての国民・部族・言語・民族に宣べ伝えるための、永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った、「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである。天と地と海と水の源を造られた方を礼拝せよ。」その後、別の御使いが続いて言った、「倒れた、倒れた。大なる都バビロンは、彼女の淫行による激しい怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませたからである。」また第三の御使いが、彼らに続いて、大声で言った。「だれでも獣とその像を拝み、額や手にその刻印を受けるなら、その者も、神の怒りのぶどう酒、すなわち、その憤りの杯に混じりけなしに注ぎ入れられたものを飲むことになる。彼は、聖なる御使いたちと小羊の御前で、火と硫黄によって苦しめられる。そして、その苦しみの煙は世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者、またその名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぎがない。」ここに聖徒たちの忍耐がある。ここに、神の戒めを守り、イエスに対する信仰を保つ者たちがいる。ヨハネの黙示録 14:6-12

ダニエル書は三天使のメッセージに基づいて構成されている。その構造は、ヘブライ語の「真理」という語の三つの段階と、それに対応する三段階の試験の過程の両方である。しかし、その試験の過程は、黙示録十三章の地から上ってくる獣（アメリカ合衆国）の歴史の流れ、さらにその獣の二本の角（共和主義とプロテスタンティズム）の歴史の流れの上に展開する。1798年に始まり、間もなく到来する日曜法に至るまで続くアメリカ合衆国の歴史は、セブンスデー・アドベンチスト教会が存在するのと同じ時代である。したがって、ダニエル書には、1798年に始まり、間もなく到来する日曜法に至るまでのアドベンチズムの歴史を描写する構造も含まれている。こうしてダニエル書は、黙示録に表されているのと同じ預言的歴史を特定し、そのことによって第二の証人のメッセージを完成へと導く第一の証人を与える。二つの書の完成は、旧約聖書と新約聖書の関係に存在していたのと同じ預言的現象によって成し遂げられる。

神の御子としてのイエスの生涯と死、そして復活の歴史は、旧約聖書に含まれる証拠なしには完全に立証することができない。キリストは新約と同じほど、旧約においても明らかに啓示されている。一方は来るべき救い主を証しし、もう一方は預言者たちが予告したとおりに来られた救い主を証ししている。贖いの計画を正しく理解するためには、旧約聖書の聖句を十分に理解しなければならない。預言の昔からの輝かしい光こそが、キリストの生涯と新約聖書の教えを明瞭に、そして美しく浮かび上がらせるのである。イエスの奇跡は彼の神性の証拠である。しかし、彼が世の贖い主であることの最も強い証拠は、新約の歴史と照らし合わせた旧約の預言の中に見いだされる。イエスはユダヤ人に言われた、『聖書を調べなさい。あなたがたはその中に永遠のいのちがあると思っているが、まさにそれこそがわたしについて証ししているのだ。』当時、旧約聖書以外の聖書は存在しなかったため、救い主のこの命令の意味は明白である。『預言の霊』第3巻、211頁。

「イエスの生涯と死と復活の歴史」は、人類のためのキリストの働きを要約し、三つの段階を証ししている。そしてその三つの段階こそが「真理」である。ヘブライ語の「真理」という語は、初めであり終わりであり、始まりであり結びであり、アルファでありオメガであるイエスを表している。また、その語自体も、同じことを表す最初の文字と最後の文字から成っている。というのも、アルファとオメガとして、イエスは物事の終わりをその始まりとともに示しているからである。キリストの生涯と死と復活は真理である。なぜなら、それらは三つの段階によって表されており、第一と最後の段階はいずれも「いのち」である。というのも、「いのち」と「復活」はいずれも「いのち」だからである。ヘブライ語のその語の中央の文字はアルファベットの第13文字であり、十三は反逆の象徴である。そして、キリストの死は、サタンと、その反逆に加わったアダムの子らの反逆によってもたらされた。

ヨハネの黙示録に記されている「イエス・キリストの黙示」の理解は、人類の恩恵期間が終わる直前に封印が解かれるのであり、その時に解き明かされる真理の主要な要素は、キリストが「真理」であり、アルファでありオメガであって、御言葉のうちにあるようにとご自身が定められた諸真理の上に、アルファでありオメガとしてのご自身の署名を記される方である、ということである。ホワイト姉妹が「神の子としてのイエスの生涯、死、復活の歴史は、旧約聖書に含まれている証拠なしには完全に立証することはできない。キリストは新約におけるのと同じように明確に旧約においても啓示されている」と記したとき、彼女は、見る者には、黙示録第十四章の三天使のメッセージ（それもまた「生、死、復活」という同じ三つの段階に基づいて構成されている）が、「ダニエル書に含まれている証拠なしには完全に立証することはできない」ことを確認しているのである。

彼女はまた、ダニエル書が「やがて来る」バビロンについて証言している一方、黙示録はダニエル書が予言したとおりのかたちで「すでに来た」バビロンについて証言していることも指摘している。さらに、そのアプリケーションは、黙示録を「味わうためには」、ダニエル書を「徹底的に理解しなければならない」と指摘している。というのも、ダニエル書からの「栄光に満ちた光」こそが、黙示録の「キリストのいのちと教えを浮き彫りにする」ことを「明瞭さと美しさをもって」可能にするからである。

彼女の言葉はまた、黙示録に表されている「イエスの奇跡」は「彼の神性の証拠である。しかし、彼が世界の贖い主であることの最も強力な証拠は、ダニエル書の予言を黙示録の歴史と『比較』するときに見いだされる」と示している、と理解することもできる。さらに、「イエスがユダヤ人に『聖書を調べなさい。あなたがたはその中に永遠のいのちがあると思っているからである。そして、それらはわたしについて証ししているのだ』と言われた」とき、今日の霊的なユダヤ人にとっては、ダニエル書こそがイエス・キリストの黙示を証ししており、その黙示は猶予期間の終わりの直前に封印が解かれ、そこに永遠のいのちが見いだされる、ということも認識できる。

ダニエル書は、黙示録において完成される予言的な真理を示している。これは「真理」を表すヘブライ語に象徴される三つの段階に基づいて構成されており、ゆえに、これらの事実が封印を解かれ明らかにされる時代に生きる世代にとって、この書そのものが試金石となる。イエスご自身は、アルファでありオメガである方として、黙示録のまさに冒頭

の言葉と第1章において直接強調されている。これらの記事はまた、ダニエル書第1章が、黙示録第14章の第一の天使のメッセージと同じ予言的構造と特質を備えていることも示してきた。

第一の天使のメッセージとダニエル書1章は、いずれも、アルファでありオメガである方のしるしとなる三段階の試練の過程を示している。章は、文字通りのバビロンが文字通りのユダを征服する場面から始まり、この書は、ダニエル書11章の最後の6節に表されているバビロンとユダの最後の戦いへと展開していく。その節々では、ミカエルが立ち上がり人類の猶予期間が閉じられるのと同時に、霊的バビロンが霊的ユダに征服される。これらの節は、バビロンとユダの戦いに関する予言的歴史の終わりを表している。その節々では、致命的な傷の癒しが描かれている。

致命的な傷の癒やしを描く諸節は、ダニエル書11章40節から始まり、その書き出しは「そして終わりの時に」である。この節にある「終わりの時」は1798年を表しており、そのとき教皇権は致命的な傷を負わされた。続く諸節は、教皇権がまず敵である南の王（ソビエト連邦）、次に同盟者である麗しの地（アメリカ合衆国）、そして三番目にその犠牲となるエジプト（国際連合）を征服していく中で、その致命的な傷がどのように癒やされるかの物語を語っている。45節で教皇権（北の王）は、助ける者もなく終わりを迎える。これらの節における教皇権の致命的な傷の癒やしの物語は、1798年の教皇権の没落から始まり、教皇権の最終的な台頭と没落で終わる。この段落の冒頭と結びの間の諸節は、その中間にある背教を明らかにしている。

「真理」を意味するヘブライ語の言葉は、ヘブライ文字の最初の文字、十三番目の文字、そして最後の文字を組み合わせて作られている。十三という数は反逆を象徴し、最初と最後のあいだの歴史を表している。ダニエル書の予言の最後の箇所では、書の冒頭のごく最初の節で表されているのと同じ戦いが描かれている。これらの節は第一章の導入となっており、そこでは真理である三段階の試練の過程を見いだす。そして最後の箇所でも、教皇権の最初の没落から始まり最後の没落で終わるというかたちで、同じ三つの段階が示され、その中ほどには終わりの時の反逆が据えられている。

ダニエル書十一章の最後の六節の中には、真理への第二の証言がある。というのも、教皇制が打ち倒す必要のあった最初の地理的勢力（南の王）は竜の力の象徴であり、三つの地理的勢力の最後のもの（エジプト）も同様だからである。致命的な傷が癒やされるために必要な三段階の征服は、無神論という竜の力の象徴である南の王から始まり、三つの勢力の最後、すなわちエジプトで表されるものは、竜に結びついた無神論を示す聖書の主要な象徴である。実際、この箇所の四十節で「south」と訳されている語は「negeb」であり、これはときにエジプトと訳される。その三つの障害には真理のしるしがある。というのも、最初の障害が最後の障害でもあるからだ。中間の勢力は栄光の地（アメリカ合衆国）である。アメリカ合衆国は、日曜法という反逆がもたらされる場所であり、建国当初のアメリカ合衆国の象徴は十三の植民地であった。

アルファとオメガのしるしはダニエル書全体に行き渡っており、それが黙示録と結び合わされると、イエス・キリストの神性を確証する証しを与える。ダニエル書十二章と、その書が封印を解かれる世代に起こる三段階の試練の過程という観点から言えば、ダニエ

ル書の構造の啓示を退けることは、悪しき者と見なされる者たちの側に属することを意味する。黙示録十四章の観点から言えば、ダニエル書の構造の啓示を退けることは、獣とその像を拝む者と見なされる者たちのうちに数えられることを意味する。

ヨハネの黙示録は、恵みの時が閉じる直前に「イエス・キリストの黙示」の封印が解かれ、そしてこの「イエス・キリストの黙示」にはダニエル書の構造の封印が解かれることが含まれていると明らかにしている。

国家の重責を担い、世界に及ぶ支配をふるう諸王国の機密にも通じた人々からも尊敬を受けたダニエルは、神からはその使節として尊ばれ、来たるべき時代の奥義について多くの啓示を与えられた。彼の名を冠する書の第7章から第12章に記された彼の驚くべき預言は、預言者自身にさえ完全には理解されなかった。しかし彼の生涯の労苦が終わる前に、彼は、「終わりの日に」-この世の歴史の終結期に-再び自分の割り当てられた分と位置に立つことを許される、という祝福された確証を与えられた。神がご計画について啓示されたすべてを彼が理解することは、彼には与えられてはいなかった。「この言葉を閉じ、書を封せよ」と、彼の預言的な記述について指示されたのである。これらは「終わりの時まで」封じられることになっていた。「行け、ダニエルよ」と、エホバの忠実な使者であるダニエルに、天使はもう一度こう命じた。「これらの言葉は終わりの時まで閉じられ、封じられているからである。…あなたは終わりまで自分の道を行け。あなたは休み、終わりの日にあなたの割り当ての分に立つであろう。」ダニエル書12:4、9、13。

「この世界の歴史の終局が近づくとつれ、ダニエルに記された預言は、私たちが生きているまさにこの時代に関わるがゆえに、格別の注意を要します。これらと結びつけるべきは、新約聖書の最後の書の教えです。サタンは、多くの人々に、ダニエルの著作および啓示者ヨハネの著作の預言的部分は理解できないと信じ込ませてきました。しかし、これらの預言を学ぶことには特別な祝福が伴うという約束は明白です。「知恵ある者は悟る」（10節）とは、終わりの時に封印が解かれるはずのダニエルの幻について語られたものです。また、世々にわたり神の民を導くためにキリストがそのしもべヨハネに与えられた啓示については、次の約束があります。「この預言のことは読む者と、これを聞き、その中に書かれていることを守る者たちは幸いである。」黙示録1:3。」『預言者と王たち』547ページ。

彼女の時代の人々に向けて将来を見越して語りつつ、ホワイト姉妹はこう述べた。「この世の歴史の終わりに近づくとつれて」「賢い者は悟る」とし、「ダニエルに記された預言は、私たちが生きているまさにこの時代に関わるので、特別な注意が求められる」と。来たるべき時代の神秘に関する多くの啓示、すなわち彼の名を冠する書の第七章から第十二章に彼が記した驚くべき預言は、「終わりの日に封印が解かれる」。

ダニエル書の封印が解かれると、三段階の清めの過程が生じ、ユダ族の獅子がご自分の民にダニエル書をお与えになる時代に生きている世代を試すことになる。黙示録10章について、シスター・ホワイトは、下ってきた天使は「イエス・キリストにほかならないお方」であったと教えている。黙示録10章では、その天使は手に小さな巻物を開いて持っており、ヨハネはそれを取って食べるよう命じられた。その巻物は「イエス・キリストにほかならないお方」であるユダ族の獅子によって封印が解かれたので、ヨハネが食べるよ

う命じられたその小さな巻物はダニエル書であった。

書物の封印を解き、この終わりの時代に起こるはずの事柄の啓示をヨハネに与えたのは、ユダの部族の獅子であった。

ダニエルは、第一の天使のメッセージが私たちの世界に宣べ伝えられる終わりの時まで封印されていたその証しを担うために、定められた持ち場に立った。これらの事柄は、この終わりの時代において無限の重要性をもっている。しかし、「多くの者が清められ、白くされ、試みられる」一方で、「悪しき者は悪を行い、悪しき者のうち理解する者はない」。まことにそのとおりである！罪とは神の律法に対する違反である。そして、神の律法に関する光を受け入れようとしない者は、第一、第二、第三の天使のメッセージの宣言を理解しない。ダニエル書はヨハネへの啓示の中で封印が解かれ、この地の歴史の最後の場面へと私たちを導いていく。

「私たちの兄弟たちは、私たちが終末の時代の危険のただ中に生きていることを心に留めているだろうか。黙示録をダニエル書と関連づけて読みなさい。これらのことを教えなさい。」Testimonies to Ministers, 115.

今や封印が解かれつつあるダニエル書の構造の啓示を退けることは、悪人と見なされる者たちに数えられることになる。ダニエル書の最初の六章は、アドベンチズムの預言的歴史、地の獣、イザヤ書23章の象徴的な七十年、プロテスタンティズムと共和主義の二本の角、第一天使と第二天使のメッセージの預言的歴史、そして三天使のメッセージの歴史を表す預言的構造を確立している。ダニエル書の最後の六章は、前述のこれらすべての歴史の始めと終わりにおいて封印が解かれる預言的メッセージを明らかにしている。

ダニエル書第1章は、地の獣の歴史の始まりにおける第一の天使の活動の歴史である。第1章から第3章は、地の獣の歴史の終わりにおける第三の天使の活動の歴史である。第4章は始まりとして第1章と対応づけるべきであり、第5章と第6章は終わりとして第1章から第3章と対応づけるべきである。第7章、第8章、第9章に表されている知識の増加は、始まりの歴史として第1章と対応づけるべきである。第10章、第11章、第12章に表されている知識の増加は、終わりの歴史として第1章から第3章と対応づけるべきである。

一行一行、このアプリケーションは地の獣の始まりの歴史を第1章、第4章、第7章、第8章および第9章として特定する。このアプリケーションはまた、地の獣の終わりの歴史を第1章から第3章、第5章、第6章および第10章から第12章として特定する。したがって、ダニエル書は地の獣の始まりと終わりの双方として提示される。

それゆえ、地の獣の始まりはダニエル書第1章として特定できる。というのも、第4章は第1章の上に（行に行を重ねるように）重ねられるからである。第7章、第8章、第9章もまた第1章の上に重ねられる。したがって、地の獣の歴史の始まりはダニエル書第1章によって表されている。

同様に、地の獣の終わりについても同じである。地の獣の歴史の終わりは第1章から第3章によって表されており、第5章、第6章、第10章、第11章、第12章は最初の三章の上に（行に行を重ねて）重ねられることになっている。したがって、地の獣の歴史の終わりはダニエル書の最初の三章によって表されている。

第1章は始まりを表し、次に第1章から第3章は終わりを表す。そして「一、ついで三」という構造は、ダニエル書の預言的構造が、黙示録14章の三天使の預言的構造と同一であることを示している。そこでも、ダニエル書の場合と同様に、第一の天使は独立した歴史を表すが、同時に三天使の歴史の三分の一でもある。同時に、この認識が「三と一」の組み合わせを特定し強調するのと同様に、それはヘブライ語の「真理」という語の構造でもあり、その語はキリストと神の創造の力だけでなく、三段階の試練と清めの過程も表している。そしてその過程は、ダニエル書第1章にも、さらにダニエル書第1章から第3章にも表されている。

真理であるイエスはまた、最初であり最後である。そしてその点において、第一の天使の運動の歴史は三人の天使の歴史の中で一字一句まで繰り返されるので、始まりはいつも終わりを例証するがゆえに、ダニエル書第一章にダニエル書の最初の三章を重ね合わせることは預言的に妥当である。こうしてダニエル書は天使の手にある「小さな書」となり、「小さな書」としてのダニエル書は第一章によって完全に表すことができるからである。

次回の記事でダニエル書の学びを続けます。

王の勅令の執行を準備していた役人たちが捜していた者の中には、ダニエルとその友人たちもいた。勅令によれば自分たちも死なねばならないと告げられると、「思慮と知恵をもって」ダニエルは王の近衛隊長アリオクに尋ねた。「なぜ王の勅令はこれほど性急なのですか」。アリオクは、王が驚くべき夢に当惑していること、そしてこれまで最も信頼してきた者たちから助けを得られなかったことを語った。これを聞くと、ダニエルは命がけで王の前に進み出て、自分の神に祈り求めてその夢と解き明かしを示していただけるよう、猶予の時を与えてほしいと願い出た。

この願いを国王は聞き入れた。「それからダニエルは自分の家に帰り、仲間であるハナニヤ、ミシャエル、アザリヤに、そのことを知らせた。」

彼らは共に、光と知識の源なる方に知恵を求めた。神が彼らを今いるその場所に置かれ、彼らが神のわざを行い、責務を果たしているのだという自覚のもとで、彼らの信仰は強かった。困惑と危険のときにはいつも、導きと守りを求めて主に立ち帰り、主は常にそこにいて助けとなる方であることを示してこられた。いま彼らは悔い碎かれた心で全地のさばき主にあらためて身をゆだね、この特別な必要の時に救いを与えてくださるよう切に願い求めた。そしてその願いはむなしくはならなかった。

彼らが敬ってきた神が、今や彼らを高くされた。主の霊が彼らの上にとどまり、そしてダニエルには、「夜の幻」において、王の夢とその意味が示された。

ダニエルがまず行ったのは、自分に与えられた啓示のゆえに神に感謝することだった。彼は叫んだ。「神の御名が世々限りなくほむべきかな。知恵と力は神のもの。神は時と季節を変え、王を退け、王を立てる。神は知恵ある者に知恵を、悟りのある者に知識を与え、深く秘められたことを明らかにされる。暗やみの中にあるものを知っておられ、光は神とともにある。わが先祖の神よ、あなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力をお与えになり、今、私たちがあなたに願い求めたことを知らせてくださいました。今や、あなたは私たちに王の事柄を知らせてくださいました。」『預言者と王』493、494頁。